

「3.11メモリアルプロジェクト」(東日本大震災:のこすプロジェクト) 事業

東日本大震災の記憶を後世に伝えていくために
震災遺物を収集・保管してさまざまな活動に役立てる

無残にねじ曲がった道路標識を見るだけで、人々は津波の脅威をリアルに感じ取ることができるのではない。物それ自体が持つ情報の強度や発信力に着目して、仙台市のアート系集団が震災遺物の収集を行った。その収集物は記憶の風化を押し止めるとともに、防災や減災の意識向上や教育に生かされることが期待される。

何事もなかったかのように瓦礫が
きれいに片付けられるだけでいいのか？

仙台市を拠点に、ジャンルを問わないアートの力を活用した地域活性化活動を行っていたMMIX Labは、震災直後、全国のアート系NPOを通して大量に送られてくる支援物資を地元のNPOと連携して被災地に届ける活動を始めた。物資の搬送を連日のように続けるなかで、非現実的な状況を作り出していた地震や津波による瓦礫の片付けや処理が始まり、どんどん町がきれいになっていく様を目の当たりにすることになる。

MMIX Lab代表理事の村上タカシさんは、「この瓦礫が何事もなかったかのように消えてなくなるのは違うの

ではないか。残せるものは残したほうがいいのではないかと感じたという。「これだけの震災を体験した以上、それを後世に伝えていく責任や義務があるのではないか。そのためには、映像や資料集だけではなく、震災の脅威や被災の状況がひと目でわかるような瓦礫を収集しておく必要がある」と、村上さんたちは考えた。

確かに“物”は、それを見たものの想像力に直接的に働きかけ、実に多くのものを語ってくれる。それは一つの情報メディアである。たとえば私たちは、広島原爆ドームや原爆資料館に展示された遺物の前に立ったときに、核の恐ろしさを思い知らされる。「大震災の記憶を風化させないためにも、いわゆる震災遺物を収集・整理し、機に応じて公開・展示することには意義がある」と、村上さん。

MMIX Labでは、仙台市から取捨のための許可証の発行を得て、宮城県内の沿岸部を中心に、主に交通標識、災害用サイレン、マンホールのふたなど、地震や津波によって激しく損壊した公共物を収集して回った。その数は、およそ100点にのぼる。収集活動はすでに終了したが、MMIX Labでは「3.11メモリアルプロジェクト」と称し、収集物を活用したさまざまな取り組みを展開中で、仙台



「3.11メモリアルキャラバン」で展示された震災遺物（新宿、全労済ホール スペース・ゼロにて）



助成を受けてストックヤードに震災遺物を保管するコンテナを整備



「3.11メモリアルプロジェクト」の一環として開催されたイベント用のチラシ

市の震災復興中長期ビジョンにも組み込まれ、すでに市との協働による具体的な活動が見られる。

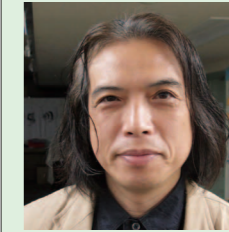
収集した震災遺物の保管・整理や
その展示事業に助成が役立てられる

被災地で収集した震災遺物は、MMIX Labのストックヤードにシートをかぶせるなどして保管されていたが、そのままでは風雨雪などによる劣化の心配があった。そこで昨年、AJOSCの助成を受け、村上さんたちはストックヤードの整備に着手。幅12フィートのコンテナを2基設置し、その中に収集物を整理・保管したほか、空き民家を倉庫として借り、そこにも収集物を保管した。

また、「3.11メモリアルプロジェクト」の一環として行った「3.11メモリアルキャラバン」にも助成が活用された。これは、収集した震災遺物を展示したり、それを囲んでトークセッションをすることで自然災害の脅威を伝えるとともに、大震災の記憶を被災地以外の人々とも共有する試みである。昨年は新宿・全労済ホール、熊本県八代市などで行われたほか、これまで韓国、台湾、アメリカなど海外でも実施された。「今後、大規模な自然災害が予想される地域でメモリアルキャラバンを実施することで、防災や減災の意識啓発に役立てたい。それによって一人でも救われる命があれば、このプロジェクトは成功だと思っています」と、村上さんは話す。

今年3月には、仙台市で行われた「国連防災世界会議」

担当者より



記憶の風化を止め
防災・減災教育にも
収集物を役立てたい

一般社団法人
MMIX Lab代表理事
宮城教育大学准教授
村上タカシさん

震災の記憶を伝えていくことは、震災を経験した人々の責務だと思います。のこすプロジェクトは短期的なスパンではなく、子孫のため、50年、100年といった長いスパンで判断する必要があります。今後は収集した震災遺物をアーカイブして、印刷物やデジタル情報にまとめる作業もしていきたいと考えています。その前提となる収集物の保管にAJOSCの助成が大いに役立ちました。

に合わせ、仙台市と協働で「3.11メモリアルプロジェクト2015」を開催。復興支援に関わるアーティストの視点で後世に伝えるためのプランなどを考えるトークセッション「アーティスト会議」や、同じく復興支援に携わる団体と一緒に「震災メモリアル展覧会」を実施したが、そこでも収集物が展示され、会場に詰めかけた人々の注目を集めた。

MMIX Labでは、この「3.11メモリアルプロジェクト」を“のこす”プロジェクトとして取り組んでいるほか、“しめす”プロジェクトとして青森・岩手・宮城・福島の津波が来た地点に桜を植樹する「桜3.11学校プロジェクト」、 “はこぶ”プロジェクトとして、仙台市最大の仮設住宅であるあすと長町仮設住宅でアートを通じた支援活動を行っている。



国連防災世界会議に合わせて開かれたトークセッション